

付 北満鉄道をめぐる諸問題

在満洲國

244 昭和9年1月10日

在吉林省(正平)總領事より
広田外務大臣宛

北満鉄道吉林商務事務所の閉鎖にともなう同營業
所ソ連人職員のハルビンへの引揚げについて
公機密第三三號

(1月19日接受)

昭和九年一月十日

在吉林

總領事 森岡 正平〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

北鐵吉林商務事務所ノ哈市引揚ニ關スル件

本件ニ關スル菱刈大使宛一月十日附機密第一三號公信寫御
参考迄ニ送付ス

機密第一三號

昭和九年一月十日

在吉林

總領事 森岡 正平

右報告ス

本信寫送附先

外務大臣 哈爾賓

245 昭和9年1月16日 在ソ連邦大田大使より
廣田外務大臣宛(電報)

ハルビンにおける經濟団体代表による北満鉄
道運賃値下げのための示威運動について

付記一 一月十三日発在ハルビン小松原(道太郎)特務
機関長より植田參謀次長宛電報哈第六一號
北満鉄道運賃値下げのための示威運動が同鐵
道ソ連側當局へ与えた影響について
二 一月十三日発在ハルビン小松原特務機関長よ
り植田參謀次長宛電報哈第六四號
北満鉄道讓渡交渉再開に向けて民衆による無
秩序な示威運動は取締まる旨報告

モスクワ 1月16日前發
本省 1月16日後着

(付記一)

十五日當地新聞ハ十三日哈府發「ロスター」トシテ左ノ如ク
報道セリ

十二日午前十一時「ルーデイ」北鐵管理局長ノ許ニ警官至
リ示威運動ノ一隊管理局ニ向ヒ進行シツツアルニ付萬一ノ
保護ノ爲來レリト警告セリ暫クシテ六十臺ノ自動車ニ分乗
セル示威運動ノ一隊現ハレ商業者代表ト稱スル日滿及白系
露人ヨリ成ル委員ハ「ル」ニ對シ北鐵ノ運賃値下方要求セ
ルヲ以テ運賃ノ合理的値下ニ付テハ管理局ヨリ累次滿側ニ
申入レタルモ寧口滿側ノ爲引懸リ居レリト説明シタル處示
威運動ノ一隊ハ反蘇の怒號ヲ以テ之ニ酬ヒ又右同様ノ示威
運動ハ「バンドーラ」副理事長ニ對シテモ行ハレ何レノ場
合モ警官カ示威運動ニ便宜ヲ與ヘタリ是等警察機關ノ組織
セル示威運動ノ目的ハ北鐵ノ收入ヲ根據無ク減少セシメ以
テ所謂鐵道價值ノ低落ニ對スル日本側ノ算定ヲ容易ナラシ

メムトスルニ在リ
哈爾賓へ轉電セリ

北鐵吉林商務事務所ノ哈市引揚ニ關スル件
當吉林省城所在北滿鐵路吉林商務事務所ハ昨年十二月廿七
日北鐵總局ノ指令ニ依リ突然閉鎖シ主任滿人郭德宗以下滿
人從業員ハ解職シ副主任蘇聯人エス、シヤリホフハ同月末
日哈爾賓ニ引揚ケタルカ右ハ北鐵收入減ヲ表面ノ理由ニ双
城堡、奉天、天津ノ各地事務所ト共ニ吉林ノ分ヲモ閉鎖セ
ルモノニシテ同事務所ハ大正十四年三月開設以來副主任シ
ヤリホフ殆ント實權ヲ掌握シ同鐵運輸業務處理ヲ表面ノ名
トシ裏面ニ於テハ當國ノ内政、軍事或ハ經濟等各般ニ亘ル
牒報蒐集ニ當リ殊ニ最近ニ至リテハ日本ノ吉林省政府ニ對
スル諸政策ノ牒知ニ努ムル等其活動愈積極化シ滿洲國當局
監視ノ的トナリタル爲日滿官憲ノ監視嚴重ヲ加ヘ來レル今
日斯ル機關ヲ以テ政治的策動ヲナスノ不利ナルヲ察知シ突
如閉鎖セルモノナリヤニ觀測セラル

尙引揚ニ際シ其任務續行方ヲ當省城ニ道碼頭居住白系露人
ソリヤトニツクナル者ニ委嘱セルモノノ如ク同人ノ行動ニ
付テハ嚴重内査中ナリ

ハルビン 1月13日後7時30分発
参謀本部 1月14日前4時25分着

哈第六一號

譲者報ニ依レハ昨十二日行ハレタル經濟團體ノ「デモ」ハ蘇側ニ相當ノ脅威ヲ與ヘタルモノノ如クルウドイノ如キハ興奮シスラウツキイニ對シ何等カノ對抗手段ヲ講スル必要アリト提議セル程ナルカス領事ハ事件ノ記錄ヲ作成スル以外何等ノ方法ナシト答ヘバンドウラハ比較的平靜ナリシト又蘇側ハ記錄掛及損害賠償掛ヲ設ケ調査シアリト

關、奉スミ

(付記二)

ハルビン 1月13日後 時 分^(電)發
參謀本部 1月14日前0時15分着

哈第六四號

東京會議再會^(開)ノ機運動キツツアル現狀ニ鑑ミ當機閥トシテハ將來運貨問題ニ閼シ民衆ノ示威運動行ハルルコトアルモ最モ合法的ニ秩序整然ト之ヲ行ハシメ代表者以外ノ管理局或ハ理事會内ニ立入ルヲ禁シ又白系露人ノ策動ヲ監視シ絶

對ニ暴行及秩序破壞等ノ行爲ヲ爲サシメサル様指導スヘキニ付右御含ヲ請フ

編注 発電時間は判読不能。

~~~~~

246 昭和9年1月16日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

被拘禁中の北滿鉄道ソ連側從業員は同鐵道讓渡交渉再開に向け政治的見地より近く釈放の

## 見込みとの合參事官からの報告について

新京 1月16日後発  
本省 1月16日後着

## 第四一號(極秘)

本使發哈爾賓宛電報

## 第五號

谷ヨリ

一、貴電第二一號ニ關シ  
十五日栗山司長ヨリ遠藤總務廳長ニ對シ冒頭貴電前段ノ次第ヲ電話ニテ通報セル趣ナルヲ以テ本官ヨリ參謀長ニ協議

ノ結果同日軍ヨリ貴地特務機關長宛被拘禁者ノ後任又ハ代理ノ問題ト切離シ東京交渉再開ノ機會ヲ與フル爲政治的見地ヨリ二十日頃迄ニ釋放スル様電報セリ尙大臣宛往電第三

○號會合ハ軍ヲ出拔キ行ハレタルモノニ非ス單ニ釋放手續

ノ問題ヲ議スル爲開カレタルモノニシテ偶々軍ノ代理人出席セス其ノ際遠藤廳長ヨリ更ニ一兩日促進ノ案提出セラレ

タルニ過キス當方ニ於テハ軍ト充分聯絡シ居レリ爲念

二、貴電第一九號後段運貨値下問題ニ關スル民衆運動ニ付テモ同様出來得ル限り穩便ニ行フ様指導方訓令セル趣ナリ  
大臣へ轉電セリ

~~~~~

247 昭和9年1月16日 在滿州國菱刈大使より
廣田外務大臣宛(電報)

ソ連側による北滿鉄道売却提議の背景に関する
在ハルビンソ連邦總領事の内話について

新 京 1月16日後発
本 省 1月16日後着

第四二號(極秘)
哈爾賓發本使宛電報

~~~~~

北滿鉄道奉天運輸營業所は閉鎖せず業務縮小

にとどめたいとのソ連側意向について

機密第六一號

昭和九年一月十八日

(1月23日接受)

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄〔印〕

外務大臣 広田 弘毅殿

昭和九年一月十八日附  
菱刈大使宛往信寫送附

件名

機密第三二號  
一、奉天北鐵運輸營業所閉鎖問題ニ關スル件

昭和九年一月十八日

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

奉天北鐵運輸營業所閉鎖問題ニ關スル件  
一部北鐵運輸營業所ノ閉鎖方針ニ關シテハ既ニ客年哈爾賓ヨリ電報ヲ以テ通報有之タル處其後在奉天同營業所ニ關スル警察諸情報ヲ綜合スルニ右ハ客年八月中北鐵理事會議ニ於テ決定セラレ當營業所長「リンドフ」ハ營口へ轉任スベキ筈ナリシ處同人ハ之ヲ以テ當初ヨリノ同營業所計劃ヲ畫餅ニ歸スルモノナリトシテ反對シタル爲改メテ北鐵商業部附屬事業課長ニ轉セラル事トナレル趣ナルモ更ニ同人ハ客臘中當地蘇聯邦領事「エロフィイーク」ト意見交換ノ結果(一)奉天營業所ハ相當多數ノ顧客アリ〔取引未済額約八萬圓アルヲ理由トシ當方營業所閉鎖ヲ延期シ主力ヲ營口ニ注キ當地ハ運送事務所トシテ内容ヲ縮少存續スルヲ可トスル趣旨ノ意見書ヲ本社ニ送付シタル一方同シク客臘中來奉セル北鐵商業課監察員(蘇聯人)モ當地支部ハ營業成績良好ニシテ今直ニ全部の閉鎖ヲ爲スハ遺憾ナリトシテ之ヲ縮少程度ニ止メ置キ度シトノ意囑ナリシ由ニテ本年ニ入りテ愈々業務縮少ノミヲ實行スヘキ旨決定セシ趣ナリ

要スルニ本件營業所閉鎖問題ハ夙ニ滿洲國側ノ主張ニ基キ決定シ居タルモ蘇聯邦側ハ種々ナル口實ヲ設ケ之ヲ縮少程

度ニ止ムル意向ナルカ如シ

何等御参考迄報告申進ス

本信寫送付先 大臣 哈爾賓 吉林

249 昭和9年2月22日 広田外務大臣  
在日本ユレネフソ連邦大使 会談

北滿鉄道ソ連側職員釈放問題等に關し広田大臣と在本邦ソ連邦大使との会談

廣田大臣及ユレネフ大使會談要錄  
二十二日午後一時半ユレネフ大使廣田大臣ヲ來訪シ北鐵

「ソ」側職員釋放問題其ノ他ニ付會談セリ要領左ノ通  
大使 二月十九日西、ライヴィード會見ノ際ノ案文ヲ貴大臣ニ於テ確認セラレタル旨ヲ承知シ當時既ニ前回貴大臣及本使間ノ會談ニ付政府ニ報告後ニテ少シク工合惡カリンモ之ヲ莫斯科ニ傳へ至急回訓方ヲ稟請シ置キタル所昨日午後回訓アリ右回訓ノ趣旨ハ貴大臣ノ希望ヲ容レタルモノニシテソ側トシテモ迅速協定ニ達セントノ希望ニ出發

大臣 莫斯科政府ノ回訓中第一點ハ滿側ニ於テ直ニ實施スルコトニモアリ之ヲ削除スルコト可然ト思考ス  
大使 本協定ハ別ニ公表スル次第ニアラサレハ協定ノ内容全部ヲ記載スル趣旨ナルカ一以外ノ點ニ關スル貴大臣ノ御意見如何

大使 貴大臣ノ御態度ヲ感謝ス浦潮ニ於ケル競賣事件ハ片付クヘク議會ノ質問等ニテ騒クハ賢明ナラス（尙大使ハ漁業ニ利害關係ヲ有スル日本當業者等ニ關スル話ヨリ久原氏カ漁業株ヲ買占メントシ居ルヤノ風說日本議會ノ模様政界ノ事情等ニ付質問スル所アリ此ノ時ノ釋放問題解決ノ協定文淨書出來上リタルヲ以テ別紙（見当づく）寫ノ通り日露兩文各二通ニイニシアルヲ爲シ各一通宛彼我双方ニ保存スルコトトセリ）

大使 茲ニ懸案モ解決スルコトトナリタルニ付何レ取極實施ト共ニ重ネテ御訪ネシ約束通北鐵讓渡ノ新値ヲ申上クルコトトスベシ尙自分ノ方ヨリ現場ノ哈爾賓ヘ通報スヘキニ依リ貴方ヨリモ關係方面ヘ可然手續ヲ取ラレタシ又

大臣 貴使ノ云ハルルニ點ニ付テハ我方ハ全然反對ノ意見ヲ有シ根本的意見ノ相異アリ兎ニ角浦潮ニ於ケル競賣ノ始末ヲツケサレハ日本ニ於テ不快ナル印象ヲ殘スコトナル實ハ昨日來議會ニ於テ本件ニ付議員連ヨリ質問セントノコトナリシモ本大臣ハ浦潮官憲ノ行爲ハ中央官憲ノ了解無ク行ハレタルモノニ非スヤト思考セラル節アルニ付旨ノ持ノヘンハ取旨ノ以ニ申ヘ居レバ第トリ

宛然戰場ノ如キ狀態ヲ呈スルニ付門前ニ近寄ラサル様取  
締ラシタシ

大臣 然ラハ一ヲ削除シニヨ一トシ三ヲ一トシ之ニイニシ  
アルヲ爲スコトトスヘシ

大臣 公表ノ有無ニ拘ラス一ノ點ハ早速滿側ニ於テ取運フ  
コトナレハ之ヲ記載スル必要無キモノト認ム(此ノ時大  
臣東郷歐米局長ヲ招キソ側ノ案文ヲ示シ意見ヲ求メタル  
後)一ヲ除ケハ他ノ二點ハ差支無シト思考ス

ンコトヲ本大臣ニ勸告スル旨記載シリ

大臣 貴方ニ於テハ浦潮ニ於テ邦人ノ入札ヲ無効トスル旨  
ヲ宣告セリトノコトナリ

大使之ニテ北鐵交渉ハ再開セラルルコトトナルカ本使ハ  
本日協定ノ取極力實施セラルレハ早速御訪ネシテ從來ノ  
アルヲ爲スコトトスヘシ

トナセルハ過ニシテ之ヲ是正スヘキ旨ノ訓令地方ニ發セラレタル筈ナリ何レ貴方ニモ浦潮ヨリ報告アルコトト思考スルハ換算率ノ問題ナリ

大臣 昨夕接到セル大田大使ヨリノ電報ニ依レハ莫斯科ニ於テモ同様ノコトヲ話サレタル由ナリ換算率ノ點ハ何レ賣ニ之ヲ結ヒ付クルコトハ甚タ不可ナリ換算率ノ問題ハ本大臣カ在莫時代漁區安定協定ノ際決定セルモノナルニ現在ノ競賣ニ關係セシムルコトハ不可解ナリ當業者モ本件ニ付テハ强硬ナル意見ナリ

大使 本件交渉ハ莫斯科ニ於テ行ハルルコトナレハ本使ノ容喙スヘキ筋ニ非サルモ換算率ヲ問題ニシタル動機ハ圓ノ低落ト日本漁業家ノ利益大ナルニ依ルモノナリ

北鐵交渉ニ付テハソノ政府ニ於テ貴大臣ニ期待シ居ル次第ニシテ満側ニ於テモ充分誠意ヲ以テ交渉ニ臨マル様貴大臣ヨリモ說得方吳々御願ス

大臣 御趣旨ノ點了承セリ自分ハ在莫中スターイン氏ニ會見ノ機會無カリシカ同氏ハ事態ヲ判断スル明アル政治家ト思ハルルカ自分カ如何ナル氣持ニテ帝國ノ外交ヲ處理シ居ルカラ貴大使ヨリ御傳下サラハ幸ナリ

大使 喜ソテ御傳スヘシ貴大臣ノ傳言ハ極メテ良好ナル印象ヲ與フルモノト思考ス

昭和9年3月5日 広田外務大臣  
在本邦ユレネフソ連邦大使 会談

北滿鉄道讓渡交渉再開問題等に關し広田大臣  
と在本邦ソ連邦大使の会談

象ヲ與フルモノト思考ス

250 昭和9年3月5日 広田外務大臣 在本邦ユレネフソ連邦大使 会談

## と在本邦ソ連邦大使の会談

付記一 八月十八日付

大使 茲ニ懸案モ解決スルコトトナリタルニ付何レ取極實  
也、其ニ重ノニ御防ヘノ約定通ヒ哉屢度ノ所直ヲ申上ク

ルコトトスヘシ尙自分ノ方ヨリ現場ノ哈爾賓へ通報スヘキニ依リ貴方ヨリモ關係方面へ可然手續ヲ取ラレタシ又

ニ應答セラレタリトノコトナリ交渉ノ方法ハ貴大臣ノ御  
考ヘ次第ニテ結構ト存ズ

北鐵交渉及漁業問題ニ關スル廣田大臣及  
「ユレーネフ」大使會談要錄

本件ニ關シ三月五日午後二時半廣田大臣ヨリ「ユレーネフ」  
大使ノ來訪ヲ求メ約三時間半ニ亘リ會談セルガ要領左ノ通  
リ

大臣 北鐵交渉ニ付御話ノ爲御來訪ヲ求メタル次第ナルガ  
特ニ此ノ官邸ニ御出ヲ願ヒタルハ新聞記者等ノ目ヲ避ケ  
ン爲ニシテ實ハ此ノ交渉ニ付テハ新聞ニ書カヌ様手配リ  
セント存シ居レリ唯外國通信員ノ取締リハ多少困難ノ點  
アルモ貴方ニ於テモ同様ノ態度ニ出テラレ度ク發表スベ  
キ事ハ互ヒニ打合ハセノ上「コンミニケ」ナリ其他ノ  
形式ニテ發表スルコトトシテハ如何

大使 自分等トシテモ何等業々シク書キ立ツル事ハ好ム所  
ニ非ラズ前回ノ話ノ事モ何人ニモ告ゲタル事無シ新聞記  
者ニ對シ何等通報セザル事ハ全然贊成ニテ外國通信員ニ  
付テ多少困難アリト言ハル御趣旨ハ判然セザルモ天羽  
情報部長ハ前回ノ貴大臣本使間ノ話ニ付外國新聞通信員

大臣 前回貴使ヨリ御話シノ事ハ滿側ニ傳ヘタリ如何ナル  
方法ニテ交渉ヲ繼續スルヤ未ダ確定シ居ラザルモ先達ノ  
御話シ丈ケニテハ滿側ニトリ判然セザル點アルニ付先ヅ  
之ヲ御尋ネシ度キ次第ナルガ此ノ間ノ一億圓ニテハ本大  
臣トシテモ妥結困難ト思考スル處双方ノ値ニハ大ナル開  
キアレバ滿側ニモ困難アリ付テハ此ノ問題ハ暫ラク其ノ  
儘トシ此ノ前右二億圓ノ中ニハ含マズト言ハレタル退職  
手當其他ハ如何程ニ計算セラルモノナリヤ又「ソ」側  
從來ノ主張ニ依レバ滿側ニ於テ東支ノ債務モ引受クベシ  
トノコトナルガ右債務モ如何程ノ額ニ達スルヤ

大使 貴大臣ノ御質問ニ回答スル前ニ滿側ノ新值ヲ承知シ  
度シ「ソ」側ハ度々新值ヲ言ヒタルモ滿側ハ何等妥協ノ  
歩ヲ進メズ滿側ニ於テ新值ヲ言ハザルコトハ「ソ」政府  
ニ對シ滿側ノ誠意ヲ疑フ餘地ヲ與フルコトナルヲ虞ル  
滿側ヨリ新值ヲ言ハレザルコトハ政府ニ對シ報告スル上  
ニモ具合惡シ

大臣 御希望ノ點ハ滿側ニ傳フベキモ退職手當ノ額ガ如何

程トナルヤ又東支ノ債務ナルモノガ如何程ノ額ニ達スル  
ヤヲ究ハメズシテ北鐵ヲ如何程ニテ譲リ受クルトイフ事  
モ滿側トシテ申シ難キコトナリ以上申述ベタル點以外ニ  
モ滿側トシテ承知シ置キタキ技術上ノ問題多々アルコト  
ト思考スルニ付滿側トシテハ滿「ソ」双方ヨリ技術關係  
ノ人ヲ會合セシメ「ソ」側ノ意向ヲ的確ニシ度キ希望ヲ  
有ス

大使 實ハ滿側ヨリ新值ヲ言ヒ出サレ度シトノ事ハ二月廿  
六日ノ會談ノ際モ申シタルコトニテ右ハ貴大臣ヨリ滿側  
ニ御傳ヘアリタルコト思考スル處本日モ右ニ付滿側ノ  
意思表示ヲ得ザルコトハ意外ナリ本日貴大臣ヨリ御尋ネ  
アリタル債務ノ問題ニセヨ又退職手當ノ問題ニセヨ今ニ  
初マリタル問題ニ非ズ滿側トシテハ自分ノ方丈ケニテモ  
斯ル調べハ付キタルモノト思フ一方ガ讓歩ニ次グニ讓歩  
ヲ以テスルニ拘ラズ他方ガ新值ヲ祕シテ言ハザルコトハ  
惡印象ヲ與フ

大臣 然シ話シヲ纏メル爲ニハ不明瞭ノ點ヲ明ニセザルベ  
カラズ退職手當ノ如キハ或ハ滿側ニテモ一通リノ調べ付  
クヤモ計ラレザルモ「ソ」側ノ調べト相違スルヤモ計ラ  
リ

レズ又債務ノ問題ノ如キハ恐ラク「ソ」側ニ非レバ調べ  
ガ付キ兼ヌルニ非ズヤト思考ス「ソ」側ノ一億圓ト言フ  
ハ如何ナル實体ナリヤヲ知ラズシテ換言スレハ如何ナル  
程度ノ借金ガ付イテ居ルヤモ究ハメズシテ買値ヲ言フハ  
不可能ナリ此等ノ問題ヲ究ハメズシテ買値ヲ言フトスレ  
バ種々ノ問題ガ殘ルトイフ結果トナル本日御尋ネシタル  
點ノ如キハ寧ロ「ソ」側ヨリ進ンデ説明スベキナリ  
大使 過去五ヶ月間モ滿側ヨリ此等ノ點ニ付質問ナカリシ  
ハ滿側ニ於テ此等ノ點ガ明瞭ナリシカ明瞭ナラズトセバ  
眞面目ニ話シヲ進メントスル意向ナカリシ爲ナラン滿側  
ニ於テハ終始同一ノ價格ヲ繰リ返エシ一度モ本日御質問  
ノ如キ點ヲ質問シタル事無シ今ニナリテ斯ル質問ヲ爲ス  
ハ莫斯科ニ對シ變ナ印象ヲ與フベシ技術上ノ問題トハ外  
ニ如何ナル問題アリヤ

大臣 退職手當、債務關係其他ノ點モアルベク本大臣ノ意  
見ヲ以テスレバ本交渉ヲ紛糾セシメタル主ナル原因ハ此  
等ノ點ヲ豫メ明瞭ニセザリシ爲ト思考ス自分ハ大臣就任  
前鵠沼ニ於テ「カズロフスキ」ニ對シ此等ノ點ニ付注  
意ヲ與ヘタル事アリ過去ノ經緯ハ兔モ角自分トシテハ何

トカ話シヲ纏ムル様努力セント考フルモノニシテ満側トシテモ徹頭徹尾同一價格ヲ繰リ返エスモノトハ思考セズ唯「ソ」側ノ意向條件ヲヨリ具体的ナラシメ「ソ」側ニ於テ賣ラントスル實体ヲ明ニセザルベカラズ其ノ實体附屬債務ノ點ヲ明ニセズシテハ賣買ハ成立スルモノニ非ラズト思考ス

大使 現在及將來ノ話シヲ爲スニモ過去ノ事ヲ知ラザル可カラズ満側ハ北鐵ヲ買ハントスル意向無カリシモノト思フ買ハントスル意思ナリセバ種々質問スベカリシモノト思考ス債務ト言ハルルガ「ソ」側ノ提議シタル所ハ北鐵ノ貸借ヲ一括譲渡スル意味ニテ右ニ關スル最モ確カナル「インフォーメーション」ハ北鐵ニ在ル事ト思考スルガ満側ハ北鐵ノ「ソ」側ニ對シ既ニ右ニ關シ質問セラレタル次第ナリヤ結局スルニ貴大臣ノ本日質問セラレタル諸點ノ中判明セザルハ債務ノ點ノミナラザルカ「ソ」側トシテ「インフォーメーション」ヲ拒ムモノニ非ザルモ満側自身ニ於テ調ベノ付クモノモアルニ非ラズヤ何レニセヨ満側ニ於テ依然自己ノ新值ヲ表示セザルコトハ莫斯科ニ對シ變ナ印象ヲ與フベシ

大臣 満側ガ本日本大臣ノ質問セル點ニ付今日迄質問セザリシトノ理由ニテ満側ニ北鐵讓り受ケノ意思無カリシモノト斷ズルハ事實ニ即セザル言ナリ自分ノ記憶スル所ニ依レバ「ソ」側ハ満側ノ提議ニ對シ満側ニ於テ「ループル」ノ換算率ニ關スル新提議ヲ爲サザル限り細目ノ點ニ言及スルコト能ハズトテ拒絕セラレタルニ非ザルカ今日迄ノ交渉ヲ顧ミレバ徒ラニ双方ノ言ヒ値ノ高低ヲ云々大切ナル事項ヲ不明ニ附シタル感アリ付テハ今後ハ賣買ノ實体ヲ明瞭ニシ價格ヲ決定シタル以上ハ後々迄ニ何等問題ノ殘ラザル様處置スル事必要ナリ

大使 過去ヲ言ヘバ満側ハ價格ノ點ヲ先決問題ナリトシ委員會設置ニ反對セリ次ギニ貴大臣ノ提議ニ付テハ之ヲ莫斯科ニ報告スベキヤ委員會トスベキヤ何レナルベキヤ間會議トスベキヤ委員會トスベキヤ何レナルベキヤ

大臣 満側ノ意向シテハ専門家ノ會合トシ不明ノ點ヲ明瞭トシ其後ハ此レヲ双方代表部ノ手ニ移シ又問題ニ依リテハ仲介者トシテノ本大臣ト貴使トノ間ニ協議スルコトト爲スモ可ナリ之ヲ要スルニ本日自分ノ言フ専門家ノ會合トハ「ソ」側賣却條件ノ抽象的ナル點ヲ具体的トナシ

右會合ニテ事態明瞭トナリタル問題ノ討議ハ兩代表部ノ手ニ移シ尙重大ニシテ「デリケート」ナル問題ハ本大臣ト貴使トノ間ニ談シ合ハントノ趣旨ナリ

大使 然ラバ「ソ」側トシテハ北鐵讓渡後ニ於ケル「ソ」側利益ノ保護ニ付即通過輸送ノ運賃及稅金問題ニ付提議シ居ルガ此等ノ問題ハ右會合ニテ「ディスカツス」セラルル次第ナリヤ

大臣 右會合ハ貴方提議ノ抽象的ナルヲ具体的トナス迄ノ事ニテ「ディスカツス」ハセザルモノナリ

レバ問題ノ決定ハ双方代表者間ノ談合ニテ決定スル次第ニテ右代表者間ノ談合ニハ専門家ノ會合ニ出席セルモノヲ列席セシムレバ可ナラン又代表者間ニ決定シ難キ事ハ仲介者タル日本政府トシテ出來得ル丈斡旋ノ勞ヲ執ル考ヘナリ自分ノ考ヘニテハ斯ル専門家ノ會合ハ會議ノ促進上最モ大切ノ事ニシテ然カモ差シタル時日ヲ要セザルベシ尙右専門家ノ會合ニ於テ明確ニスベキ問題ハ主トシテ債務退職手當ノ點ナルベキガ其他ニモ満洲ヨリ質問シ度キコトモアルベクスル點ハ満側ノ専門家ト「ソ」側専門家ト可成早ク會合シ問題ヲ出シ合フ事トセバ可ナラン

大使 委細莫斯科ニ報告スベシ

大臣 自分モ話シノ纏マル様努力スベシ唯漁業問題ノ如キテ右ハ資料蒐集調査的性質ノモノニシテ問題ヲ討議スルモノニ非ラズト了解スカル會合ハ「ソ」側ノ通過運輸

ニ付如何ナル説明ヲ與ヘ得ルヤ斯ル會合ガ如何ナル程度ニ效果的ナルカハ實際上會議ノ上ナラデハ判明セザルモ御話シノ趣旨ハ充分判明シタルニ付政府ニ報告スベシ

何レニセヨ満側ガ其ノ新值ヲ表示スルコト緊要ナリ

大臣 要スルニ右會合ノ結果双方ノ主張具体的ニ明瞭トナ

大臣 滿側ガ本日本大臣ノ質問セル點ニ付今日迄質問セザリシトノ理由ニテ満側ニ北鐵讓り受ケノ意思無カリシモノト断ズルハ事實ニ即セザル言ナリ自分ノ記憶スル所ニ依レバ「ソ」側ハ満側ノ提議ニ對シ満側ニ於テ「ループル」ノ換算率ニ關スル新提議ヲ爲サザル限り細目ノ點ニ言及スルコト能ハズトテ拒绝セラレタルニ非ザルカ今日迄ノ交渉ヲ顧ミレバ徒ラニ双方ノ言ヒ値ノ高低ヲ云々大切ナル事項ヲ不明ニ附シタル感アリ付テハ今後ハ賣買ノ實体ヲ明瞭ニシ價格ヲ決定シタル以上ハ後々迄ニ何等問題ノ殘ラザル様處置スル事必要ナリ

大使 過去ヲ言ヘバ満側ハ價格ノ點ヲ先決問題ナリトシ委員會設置ニ反對セリ次ギニ貴大臣ノ提議ニ付テハ之ヲ莫斯科ニ報告スベキヤ御趣旨ハ代表部ノ會合トスベキヤ中間會議トスベキヤ委員會トスベキヤ何レナルベキヤ

大臣 満側ノ意向シテハ専門家ノ會合トシ不明ノ點ヲ明瞭トシ其後ハ此レヲ双方代表部ノ手ニ移シ又問題ニ依リテハ仲介者トシテノ本大臣ト貴使トノ間ニ協議スルコトト爲スモ可ナリ之ヲ要スルニ本日自分ノ言フ専門家ノ會合トハ「ソ」側賣却條件ノ抽象的ナル點ヲ具体的トナシ

大臣 滿側ガ本日本大臣ノ質問セル點ニ付今日迄質問セザリシトノ理由ニテ満側ニ北鐵讓り受ケノ意思無カリシモノト断ズルハ事實ニ即セザル言ナリ自分ノ記憶スル所ニ依レバ「ソ」側ハ満側ノ提議ニ對シ満側ニ於テ「ループル」ノ換算率ニ關スル新提議ヲ爲サザル限り細目ノ點ニ言及スルコト能ハズトテ拒绝セラレタルニ非ザルカ今日迄ノ交渉ヲ顧ミレバ徒ラニ双方ノ言ヒ値ノ高低ヲ云々大切ナル事項ヲ不明ニ附シタル感アリ付テハ今後ハ賣買ノ實体ヲ明瞭ニシ價格ヲ決定シタル以上ハ後々迄ニ何等問題ノ殘ラザル様處置スル事必要ナリ

大使 過去ヲ言ヘバ満側ハ價格ノ點ヲ先決問題ナリトシ委員會設置ニ反對セリ次ギニ貴大臣ノ提議ニ付テハ之ヲ莫斯科ニ報告スベキヤ御趣旨ハ代表部ノ會合トスベキヤ中間會議トスベキヤ委員會トスベキヤ何レナルベキヤ

大臣 満側ノ意向シテハ専門家ノ會合トシ不明ノ點ヲ明瞭トシ其後ハ此レヲ双方代表部ノ手ニ移シ又問題ニ依リテハ仲介者トシテノ本大臣ト貴使トノ間ニ協議スルコトト爲スモ可ナリ之ヲ要スルニ本日自分ノ言フ専門家ノ會合トハ「ソ」側賣却條件ノ抽象的ナル點ヲ具体的トナシ

大使 換算率ニ付テハ、「ソ」側ニ於テ之ヲ引キ上グル理由アリ日本側ガ再競賣參加ヲ拒ム様ナ遣リ方即最後通牒的遣リ方ハ問題ノ解決ニ適セズ

大臣 夫ハ本末ヲ顛倒シタル話シナリ抑々「アコ」債券ノ相場ハ曩キニ兩國政府間ニ決定セルモノナル處「ソ」政府ハ之ヲ一方的ニ變更スル權利アリト言ハルルヤ又日本當業者ハ競賣ニ參加シ政府間ノ決定ニ依ル換算率ヲ以テ入札スルノ權利アリ

然ルニ「ソ」側ハ條約ニ反シ日本人ノ競賣ヲ無効トシタルガスル權利アリヤ

大使 換算率ハ永久ノモノニ非ラズ「ソ」側ニハ之ヲ變更スル權利アリ競賣ニ付イテハ無効トセズ再競賣ノ日附ヲ示シ保證金トシテ納入スル額ハ換算率ノ決定的解決ヲ見ル迄内金トシテ納入スルコトヲ提議シ居ル處日本側ニ於テ之レニ應ゼザルハ從來ノ換算率ヲ固執セントスル爲ナルベシ尤モ自分ハ漁業問題ハ餘り詳シク承知シ居ラズ

大臣 貴大使ノ言ハルコトハ自分ノ質問ニ對スル回答トナリ居ラズ政府間ニ協定シタル所ヲ一方的ニ變更スル權利アリヤ再競賣トイフカラニハ最初ノ競賣ヲ無効トシタ

ルニ依ルニ非ラズヤ以上ハ政府間ノ協定及條約ノ違反ナリ日本政府トシテ之ヲ黙視スルコト能ハズ何處迄モ主張セザルベカラズ

大使 換算率ニ關スル協定ト條約トハ自ラ趣ヲ異ニス「ソ」政府トシテハ條約ニハ違反セズ貴大臣モ曩ニ漁業問題ニ關シ誤解ノ發生セルコトヲ以テ地方官憲ノ過失ト認ムル旨ヲ言ハレタルニ本日ハ莫斯科政府ヲ攻撃セラルル様ナリ問題ヲ糾糾セシムルハ双方ノ不爲メナリ

大臣 問題ヲ糾糾セシメザル趣旨ハ全然同感ニテ浦潮ニ於テ條約違反ノ大問題起リタルニ拘ラズ日本側ハ事態ヲ紛糾セシメザル爲再競賣ニ付或程度迄應ゼントスル考ヘナリシ處貴方ハ換算率ニ關スル協定ヲ破ラントス競賣ニ關スル不正ハ是正スト言ハレ乍ラ之ヲ換算率ノ問題ニ結ビ付ケ「ソコリニコフ」氏ノ如キモ換算率ヲ以テ「ソ」側ノ一方的行爲ニ依リ變更シ得ルガ如キコトヲ言ハレ居ルハ遺憾ナリ

大使 換算率ニ關スル協定ハ今ヤ種々ノ事情ノ下ニ意味ナキ事トナレリ換算率ノ問題ハ漁業條約トハ相違ス

大臣 換算率ノ問題ハ幣原大臣ト「トロヤノフスキ」ト

ノ間ニ取り極メラレタル問題ニシテ一方的ニ變更セラルベキモノニ非ラズ日本ノ漁業家ハ其ノ納付スル保證金ハ右法定ニ依ル換算率ヲ以テ納入スレバ可ナル次第ニテ何等之ヲ以テ「アヴァンス」トシテ納入スル義務無シ

大使 自分ハ「ソコリニコフ」ノ説明以外何等附ケ加工テ申スコト無シ唯事態ヲ紛糾セシムル事ハ之ヲ避ケザル可ラズ

大臣 換算率ハ問題トセザランコトヲ希望ス

大使 換算率ハ大分以前ヨリノ問題ナリ

然ルニ今トナツテ騒ルルハ遺憾ナリ事態ヲ競賣不參加迄持ツテ行クコトハ好マシカラザル事ナリ

大臣 以前ヨリノ問題ナリト言ハルルモ何時之ヲ政府間ノ問題ト爲サレタルヤ寧口貴方ノ財務當局ガ勝手ニ換算率ヲ七十銭ト極メ浦潮ニ訓令セルモノニ非ルカ條約協定ヲ正確ニ承知シ居レバ斯ル事ハ爲シ得ザル筈ナリ本大臣ガ莫斯科時代「カラハン」トノ間ニ取極メタル協定ニ依レバ日本人ノ漁業ハ四年間同一條件ニテ行ハルルコトトナリ居レリ

然ルニ之ノ協定ヲモ無視シテ一方的ニ行動スルハ面白カ

ラズ本大臣自ラ署名シタル取極ヲ犯サルルコトハ困ル次第ナリ

大使 書類ヲ見ザレバ何トモ申シ兼ヌルモ「ソ」政府トシテ條約ニ違反シ居ルコトハ爲シ居ラザルコトト思考ス「ソコリニコフ」ノ説明ハ委細大田大使ヨリ報告アルコトト思考スルガ大田大使ハ甚ダ非妥協的ナリトノコトナリ貴大臣ヨリ大田大使ノ態度緩和方訓令セラレタシ

大臣 大田大使ハ日本政府ノ意向ヲ其ノ儘取次ギ居ルモノナリ日本政府ハ協定乃至條約ノ違反ヲ默認スルヲ得ズ「ソ」政府ガ今回ノ如キ態度ニ出デ國際條約ヲ自分勝手ニ解釋スルカラニハ今後同政府ト話シ合ヒヲ爲スニハ非常ニ警戒スルヲ要ス恐ラク貴國財政當局ガ外務當局ノ意見ヲ容レズ勝手ニ行動シ居ルニハ非ザルカ

大使 斯ルコトハ在リ得ザルコトナリ又「ソ」政府ハ如何

ナル政府ニモ劣ラズ國際義務ニ忠實ナリ

大臣 實ハ最近又々議會ニ於テ漁業問題ニ付議會ノ問題ト爲サントスルモノアル處自分ヨリ暫ラク待テト抑エ居ル様ノ次第ナリ

就テハ貴大使ヨリモ本國政府ニ對シ本大臣ノ所見ヲ貴政

大使 本日御話シノ次第ハ逐一政府ニ報告致ス可シ

## (付記一)

一九三四年(昭和九年)八月十八日北鐵交渉

## 問題ニ關スル「ソ」側聲明

八月十八日「ソ」聯邦「タス」通信ハ八月十八日ノ新聞ニ左ノ發表ヲ爲セリ

北鐵交渉滿側委員ノ東京出發並ニ事實上ノ交渉中絶ニ對スル責任ヲ蘇側ニ歸セントスル滿洲國政府ノ聲明發表ニ顧ミ「タス」社ハ右ニ付責任アル官憲ノ説明ヲ求メ左ノ如ク報道ス

客年五月一日蘇政府ハ對日紛爭ノ源泉ヲ根本的ニ除去スルノ見地ヨリシテ日本政府ニ對シ日本又ハ滿洲國ニ北滿鐵道ヲ賣却スルコトヲ決意シ之ニ關スル申告ハ「リトヴァイノフ」ヨリ大田大使ニ爲サレタリ同年六月二十六日東京ニ於テ蘇滿交渉開始セラレ蘇側委員ハ賣價二億五千萬金留ヲ申出テ滿側五千萬圓ヲ唱へ次テ八月四日蘇側一億金留ニ減額シタルモ其ノ後九月二十四日ノ六名拘禁事件起リ約半歲ニ亘リ

交渉停頓中ナリシカ本年二月二十六日「ユレーネフ」大使ヨリ一億圓ニテ賣却スヘク尙其ノ半額ハ日本商品ヲ以テスルモ可ナリト申出テタルモ右ニ對シ滿側ハ漸ク四月二十六日ニ至リ一億圓但シ此ノ内ニハ鐵道職員退職手當約三千萬圓ヲ含ム旨提議シ次テ五月十八日廣田大臣ヨリ更ニ讓歩方「ユレーネフ」ニ希望アリタルニ依リ蘇側ハ五月二十五日同大臣ニ對シ其ノ仲介ノ勞ヲ容易ナラシムル爲更ニ一千萬圓減額スヘキ旨回答シタリ

六月二十三日廣田氏ハ仲介者トシテ「ユレーネフ」ニ對シ一億圓退職手當滿側負擔ニテ買收方提議シ「ユ」ハ交渉急速成立ノ爲更ニ一讓歩ヲ爲シ六月二十八日一億七千萬圓トスヘキ旨申出テ廣田大臣ハ之ニ對シ七月二十三日一億二千萬圓退職手當滿側負擔ヲ提議シ「ユ」ハ七月三十日廣田大臣及滿洲國ノ最後の決定ヲ爲ス上ニ於テ便ナラシムル爲好意的ニ更ニ一讓歩ヲ爲シ一億六千萬圓ニテ妥結セントヲ申出テ向他ノ條件ニ關シ蘇政府ハ賣却ノ半額ニ代ヘ三分ノ二ヲ商品ヲ以テ受領スルヲ得ヘシト爲セリ蘇政府ハ右提議ニ依リ北鐵交渉ハ無事完了スルモノト思考シタリ然ルニ廣田氏ハ右蘇政府ノ提議ヲモ拒絕シ該回答ニ最後通牒的性質

ヲ附與セル爲八月十日ノ「ユ」廣田兩氏間ニ行ハレシ密談ハ何等事態ノ變更ヲ見シテ終レリ而シテ其ノ後八月十三日大橋委員「ユ」ヲ來訪シ滿側委員東京出發歸滿ノ旨ヲ通知シタルニ依リ日滿側ハ事實上本交渉ヲ中絶セルモノナリ前記蘇政府最後ノ提案カ廣田氏ニ依リテ拒絕セラルヤ反蘇運動直ニ日滿新聞紙上ニ現レタルカ此ノ運動ハ北鐵賣却交渉ニ於テ明カニ蘇側ニ壓迫ヲ加ヘントスル目的ヲ有シ交渉ノ實際ノ經過ヲ甚シク誤傳シ居ルモノニシテ兩當事國讓步ノ歩合ヲ對照セハ蘇側ノ非妥協的ナル態度ニ依リ交渉危殆ニ陥レリトノ日本側宣傳ノ價值ハ自ラ明カナルヘシ

本件交渉中蘇側カ二億五千萬金留即チ六億二千五百萬圓ヨリ一億六千萬圓即チ約五千六百萬金留ニ迄讓歩セルニ拘ラ

ス日滿側ハ五千萬圓ヨリ一億一千萬圓迄即チ七千萬圓ヲ高メタルニ止マレリ若シ一千七百杆ノ大鐵道ニシテ且豐富ニ各種設備企業ヲ有シ多大ノ收益ヲ與ヘ居ル今日人爲的ニ困

難ナル事態ヲ惹起シ居ルニ拘ラス本件北滿鐵道ニ對シ滿側カ明カニ不眞面目ナル評價タル五千萬圓ヨリ交渉ヲ開始シタルコトヲ思ヘハ日滿側ノ讓歩カ如何ニ少キカハ明カトナ

ルヘシ

## (付記二)

編注 本文書は、昭和九年十二月、欧亜局第一課作成『第六十七議會用調書』上巻から抜粋した。

昭和九年八月二十二日北鐵交渉經過ニ關スル

外務省聲明

客年六月二十六日帝國政府斡旋ノ下ニ開始セラレタ北滿鐵道讓渡交渉ニ於テ當初「ソ」聯邦代表ハ二億五千萬金留即「ソ」聯邦政府ノ所謂公定相場ニ依レハ邦貨約六億二千五百萬圓ニ達スル價格ヲ提議スルト共ニ鐵道從業員ニ對スル退職金ハ全部滿洲國ニ於テ負擔スヘキ旨ヲ主張シタニ對シ滿洲國代表ハ北鐵カ滿「ソ」兩國ノ共同經營ノ下ニ在ルコト並滿洲國鐵道建設事業進展ノ現狀等ニ鑑ミ讓受代償額トシテ五千萬圓ヲ提議シタ其ノ後「ソ」側ハ五千萬金留ノ值下ヲ爲シテ來タカ會議ハ各種ノ抽象的議論ニ終始シテ進展セス更ニ同年十月「ソ」側ハ日滿兩國ノ北鐵奪取計劃アリト宣傳シタ爲交渉停頓スルニ至ツタカ本年二月再開ノ運トナリ「ソ」聯邦代表ハ廣田外相ニ對シ「ソ」側ノ北鐵賣却新值段トシテ紙幣圓二億圓ヲ提示シ且我方ノ照會ニ對シ「ソ」聯邦人現從業員ニ對スル退職金邦貨約三千萬圓並本年一月一日現在ニ於ケル北鐵貸借表ヲ通報越シタ仍テ四月二十六日ノ中間會商ニ於テ滿洲國代表ハ交渉ノ圓滿ナル解決ヲ希望スルノ趣旨ニ依リ(イ)北鐵一切ノ債權及

「ソ」側提示ノ貸借表記載ノ債務ヲ滿洲國ニ於テ引繼クヘク又(ロ)退職金ハ賣主ノ負擔スヘキコト當然ナルニ依リ「ソ」聯邦人現從業員ノ退職金ハ「ソ」側ニ於テ支拂フヘシ等ノ條件ノ下ニ曩ニ提案シタ代償額五千萬圓ヲ一億圓ニ引上クヘキコトヲ提議シタ然ルニ「ソ」聯邦代表ハ漸ク五月二十日ニ至リ一千萬圓ヲ減額スヘキ旨申出來レルノミニテ交渉進展セス再ヒ停頓ノ外ナキ狀況ニ陷ラムトシタルヲ以テ廣田外相ハ在京「ソ」聯邦大使ニ對シ試案トシテ北鐵値段ハ一億圓トシ「ソ」聯邦人現從業員ノ退職金ハ滿側負擔トシテ解決方勸告シタ「ソ」側ハ之ニ對シ價格ヲ一千萬圓減額シテ一億七千萬圓トナスヘキコトヲ申出タカ未タ猶滿「ソ」間價格ニ大ナル開アリ交渉進歩ノ見込附カサリシヲ以テ七月一十三日廣田外相ヨリ「ソ」聯邦大使ニ對シ日滿「ソ」三國間國交ノ大局ニ着眼シ問題ノ圓滿解決ヲ期スル爲仲介者トシテ公正妥當ト信スル値段ヲ提議スヘシトテ價格一億二千萬圓、「ソ」聯邦人現從業員ノ退職金ハ別ニ滿側負擔トスルノ案ヲ提示シ之ト同時ニ鐵道讓受ニ關スル其ノ他ノ主要條件ニ付滿洲國側ノ主張ヲ傳達シタ然ルニ「ソ」聯邦政府ハ七月三十日右仲介案ヲ拒絕シ對案

トシテ從前ノ提示價格ヨリ僅ニ一千萬圓ヲ讓歩シタ一億六千萬圓案(「ソ」側從業員退職金ハ別ニ滿側負擔)ヲ提示スルト共ニ右價格ノ支拂條件中現金支拂ニ付所謂「ゴーリド・クローズ」ヲ設ケ商品ニ依ル支拂ニ付商品ノ價格ヲ讓渡協定ト同時ニ決定スヘシ等ノ新ナ條件ヲモ附加シ來ツタ

於是廣田外相ハ「ソ」側ノ慎重再考ヲ求メタカ八月十日「ソ」側ハ再度之ヲ拒絶シタルニヨリ同外相ハ此ノ上ハ満

次テ滿洲國大橋代表ハ八月十三日「ソ」聯邦大使ヲ訪問シ

滿洲國政府ハ本件ヲ圓滿ニ解決セムトスル廣田外相ノ誠意ニ鑑ミ難キヲ忍ンテ其ノ仲介案ヲ受諾セムトスルモノナル旨ヲ述フルト共ニ「ソ」側ニ於テモ受諾方可然旨勸告シタカ同大使ハ滿洲國側ヨリ值上ノ申出ナキ限り直接交渉ヲ行フ意思ナシト述ヘタルヲ以テ大橋代表ハ「ソ」側ノ深甚ナル反省ヲ求ムルト共ニ此ノ儘ニテハ自分ノ滯京モ無用ナルニ付東京ヲ引揚クヘク尤モ右ハ交渉ヲ決裂セシメントスル趣旨ニアラサル旨ヲ述ヘテ引取ツタ趣テアルスクテ同代表ハ退京シタカ丁首席代表ハ依然東京ニ在リ

北滿鐵道讓渡交渉ノ經過ハ敍上ノ如ク帝國政府ハ調停者ト

シテ常ニ誠意ヲ披瀝シ本件交渉ノ成立ニ多大ノ努力ヲ傾倒セル次第テアルカ「ソ」聯邦政府ハ近來廣田外相仲介案ヲ目シテ最後通牒的ナリトシ又近時北鐵東部線上ニ頻發セル列車被害事件ニ伴フ檢舉ヲ以テ何等讓渡交渉ト關聯アル旨喧傳シ居ル處帝國外務大臣ハ北鐵交渉ニ於ケル仲介者タルトハ同外相ヨリ「ソ」聯邦代表ニ特ニ説明ヲ加ヘテ置イタ譯テアツテ「ソ」聯邦カ前記仲介案ヲ拒絶シタルニ對シテハ同外相ハ滿「ソ」間直接交渉ヲ勸告シタニ過キナイ若シ夫レ列車被害事件ノ檢舉ニ至ツテハ本年一二三月以來頻發セル軍用列車顛覆ノ陰謀ニ對スル司直事件ニシテ何等本件交渉ニ關係ナキコトハ極メテ明白テアル尙「ソ」側ハ頻リニ其ノ讓歩大ナリシヲ說示スルモ「ソ」側當初ノ提案タル二億五千萬金留(邦貨六億二千五百萬圓)又ハ二億金留(邦貨五億圓)ハ本年二月以來「ソ」側ノ申出テタル讓渡價格(邦貨二億圓乃至一億六千萬圓)ニ對比シ其ノ如何ニ荒唐無稽ナル懸値ニ外ナラサリンカヲ告白スルニ過キナイ

抑々「ソ」聯邦ノ北滿鐵道讓渡提議ニ對シテハ同政府ノ眞意如何ニ付卷間種々ノ觀測カ行ハレタ日ク「ソ」聯邦ハ現

ハニ平和交渉ヲ装フト雖反面帝國カ近ク國際「危局」ニ遭  
逢スルコトアルヘキヲ想定シテ其ノ際迄交渉ノ遷延ヲ策セ  
ムトスルモノテアル從テ假令北鐵價格ニ付意見ノ一致ヲ見  
ルモ「ソ」側カ其ノ他ノ讓渡條件ニ付審議遷延ヲ策スルニ  
於テハ交渉ハ尠クトモ今年冬期迄持越スラ得ヤウ若シ「ソ」  
聯邦ノ眞意果シテ斯ノ如シトセハ帝國政府ニ於テ如何ニ幹  
旋ニ奔命スルト雖右ハ畢竟徒勞ニ歸スヘキノミナラス事態  
ハ極メテ重大ナリト云ハサルヲ得ナイト

帝國政府ハ此等觀測ノ間ニ處シテ專ラ極東平和ヲ提唱スル

「ソ」聯邦政府ノ誠意ニ信倚シ波瀾重疊ノ裏努メテ當事國  
間ノ意見接近ヲ計リ以テ漸ク前記程度ノ交渉段階ニ到達シ  
タ次第テアルカ本交渉カ果シテ一部論者ノ豫測スルカ如キ  
不幸ナル結果ニ了ルヘキヤ否ヤハ結局之ヲ事實ニ依リ證明  
スルノ外ハナイ帝國政府ハ今猶本件交渉ノ圓滿妥當ナル解  
決ヲ希望スルモノニシテ他面滿洲國政府ハ「ソ」聯邦側ニ  
對シ總計一億五千萬圓ニ達スル巨額負擔ヲ爲スヘキ旨ヲ明  
カニシ北滿鐵道ノ根本的解決ヲ平和交渉ニ依リ遂行スルノ  
意思アルコトヲ實證シタ由來北鐵交渉ノ根本目的ハ鐵道ノ  
讓渡ニ依ツテ現場ニ於ケル紛議ヲ除去シ以テ日滿「ソ」三

國關係ノ平和的發展ヲ期スルニアツテ隨時發生スル現場ノ  
紛議ヲ理由トシテ交渉ヲ遲延セシメムトスルニ於テハ交渉  
ハ遂ニ妥結ノ時ハナイテアラウ若シ夫レ「ソ」聯邦政府ニ  
シテ眞ニ讓渡ノ意思ヲ有シ且ツ成ルヘク速カニ之ヲ實行ス  
ルノ希望アルニ於テハ必スヤ之ニ對應スル適當ノ意思表示  
カアルヘキテアル

編注 付記一編注に同じ。

### (付記三)

昭和九年八月二十二日北鐵交渉問題ニ關スル滿洲國政府聲  
明  
蘇側當局ハ八月十八日「タツス」ヲ通シ當初ノ了解ニ反シ  
不信義ニモ北鐵交渉ノ内容ヲ暴露シ交渉中絶ノ責ヲ滿側ニ  
塗附クルノ常套手段ニ出テタリ右發表中蘇側ノミ如何ニモ  
讓歩シタルカノ如ク宣傳シ居ル處蘇側ノ當初ノ言值二億五  
千萬金留即チ六億二千五百萬圓ハ北鐵ノ實價ヲ無視シタル  
途方モ無キ掛引價格ニテ夫ヲ今日蘇側ノ提案セル額ニ讓歩  
シタリトテ何等誠意ヲ示シタルモノニアラス即チ滿洲國ハ

物ノ賣買ニハ當初高ク吹掛けタルカ勝ナリトノ「ソヴィエ  
ツト」式論法ヲ承認スル能ハス即チ此ノ六億二千五百萬圓  
カ全ク不眞面目ナルコトハ其ノ後言値カ急轉直下二億圓ニ  
引下リタルニ見テモ明カニシテ從テ二億圓對五千萬圓ヲ以  
テ交渉ハ眞面目ナル段階ニ入りタルモノト認メサルヘカラ  
ス

滿側トシテ之カ値上ハ當初不可能ニ近カリシモ極東平和維  
持ノ大局ト廣田外相ノ切實ナル斡旋ニ鑑ミ代價額一億二千  
萬、退職金滿側持即チ蘇側聲明ノ如ク「ソ」聯邦籍現從業員  
員退職金額ヲ約三千萬圓ト假定シ之ニ滿洲國籍現從業員退  
職金約二千萬圓ヲ加算セハ實質約一億七千萬圓ノ廣田仲介  
案受諾ヲ考慮セントスル雅量ヲ示シタリ即チ二億圓對五千  
萬圓ニテ始マリタル交渉ニ於テ滿側ハ約一億七千萬ヲ受  
諾スル程ノ大讓歩ヲ示シタルニ拘ラス蘇側ハ之ヲ以テ二束  
三文ノ價格ナリト稱シ話ニナラサルニ依リ我方交渉委員カ  
此ノ上東京ニ滯在スルモ無用ナリトシテ東京ヲ引揚ケタル  
コトハ當然ニシテ交渉中絶ノ責任ノ何レニアルカハ明白ナ  
リ尙北鐵蘇聯人從業員ニ對スル滿側ノ措置ハ是等從業員中  
一部ノ者カ匪賊ト結托シテ滿洲國內ヲ擾亂シ殊ニ軍用列車

編注 付記一編注に同じ。

251 昭和9年7月4日 在奉天蜂谷總領事より  
廣田外務大臣宛

### 北滿鐵道奉天商業部の閉鎖説について

(7月13日接受)

昭和九年七月四日

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

機密第六〇五號 昭和九年七月四日附  
菱刈大使宛往信寫付

件名

一、奉天北鐵商業支部閉鎖ト通商代表部閉鎖說ニ關スル件

機密第五六〇號  
昭和九年七月四日

在奉天

總領事 蜂谷 輝雄

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

奉天北鐵商業支部閉鎖ト通商代表部閉鎖說

ニ關スル件

奉天北鐵運輸營業所ノ閉鎖說ニ關シテハ本年一月十八日附

往信機密第六一號ヲ以テ報告申進シタル通ノ處右營業所其

後ノ狀況竝ニ通商代表部閉鎖說ニ關シ警察其他ノ諸情報ヲ

綜合スルニ左記ノ如ク今回其閉鎖ヲ見ルニ至レル趣ナリ何

等御参考迄ニ報告申進ス

記

當地北鐵商業支部ニ於テハ前支部長「イリヤ、リンドウ」

ノ轉勤後「ミハイル、テーブギン」支部長代理トシテ事務

尙本件ニ關聯シ當地駐在蘇聯商務官「イリヤ、ペフジン」

ハ鐵路總局總務處員ニ對シ

一、最近大連蘇聯通商代表部閉鎖ノ噂有ルモ同代表部ハ絶對

ニ閉鎖サルルコト無ク今後トモ密接ナル通商關係ニ努ム

ノノ如シ

二、奉天北鐵商業支部ノ閉鎖ニ依リ日本人運輸業者ハ奉天通

商代表部トノ間ニ運輸契約ヲ希望スル向多數有ルモ目下

ル積ナリ

三、奉天北鐵商業支部ノ閉鎖ニ依リ日本人運輸業者ハ奉天通

商代表部トノ間ニ運輸契約ヲ希望スル向多數有ルモ目下

考慮中ナリ

機密第二〇一號

昭和九年八月十五日

(8月25日接受)

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理惠(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

赤旗紙ノ反日報道ニ關スル件

本件ニ關シテハ本年六月二十八日附機密第一六九號往信ヲ以テ報告ノ次第アリ其ノ後本官當地外務代官ト會談ノ際既報赤旗紙ノ露骨ナル反日報道振リヲ指摘シテ斯ル遣リロハ我中央當局ヲ憤慨セシムヘキハ勿論一般本邦輿論ヲ刺激シ却而反動的ニ之カ硬化ヲ招クヘク双方共之ヲ繰リ返ス間ニハ相互國民ヲ驅リテ遂ニハ當局者不測ノ不祥事ヲ突發セシメ拾收スヘカラサル事態ヲ招來スルノ虞ナシトセス從而此ノ際自重シテ第三國ノ宣傳ニ乘セサル様自制シ善意ノ<sup>相<sub>互</sub></sup>主義ヲ相互ニ實行スル様努力致シ度モノト強調シ相手方ノ反省ヲ促シタルニ先方モ諒トシタル如ク見受ケラレ居タル其結果ニヤ爾來赤旗紙ノ反日報道ハ比較的無風狀態ヲ續ケ差シテ挑發的ノモノ見受ケラレサリシ處此ノ程ニ至リ北

紙ハ俄然其ノ第一面ノ殆ント全部ヲ割キテ「脅迫者ハ鎮マラス」ノ大見出シノ下ニ十一日「プラウダ」紙社説ヲ轉載シ其ノ他北鐵沿線ニ於ケル匪害ニ關スル「ルーデイ」局長ノ報告等反日記事ヲ掲クルトコロアリ右大要左ノ如シ  
一、『脅迫者ハ鎮マラス』(八月十一日「プラウダ」紙社説電報)

日滿紙上ニ於ケル反「ソ」運動ハ最近新ナル力ヲ加ヘ展開サレツツアリテ右運動ノ鼓吹者ハ日本ニ於ケル反「ソ」輿論ヲ刺戟スル爲ニハ如何ナル虛構ヲモ顧ミサル程ナリ右運動ハ北鐵讓渡交渉ノ進行ニ對シ『壓迫』ヲ加ヘントスル常套手段ナルコト明カナリ

本日ノ「プラウダ」紙上ニ發表セラレアル「ルーデイ」局長ノ報告ニ依レハ日滿側ハ北鐵壓迫ノ爲古キ手段ヲ用ヒ居リ本年初頭以來八ヶ月間ニ警備ナキ爲(右警備ハ日本ノ掌中ニアリ)停車場及宿舍ノ襲撃九一、勤務員ノ拉致一一六、橋梁損壊九、殺害四六及負傷一〇二ニ達シ此ノ間に於テ列車ノ顛覆一六、機關車及車輛ノ損傷ハ前者一二及後者二〇七輛ニ及ヘルカスル脅迫手段ハ「マンチエスターガーディアン」紙、「ハルピングスコエ、ウレミヤ」、國民、日日、朝

日、哈爾賓新聞ノ報道ニ依ルモ日本側ノ北鐵奪取ノ計畫的行爲ナルコト明カナリ  
「ハルピングスコエ、ウレミヤ」紙ノ如キハ北鐵問題ハ對「ソ」戰爭ニ依リテ解決セサルヘカラストナシ更ニ『報知』ハ曰「ソ」關係ヲ目シテ遺憾ナカラ快晴ニ惠マレスト嘆シ居レルカ吾人ハ如何ナル嘆聲モ日本帝國主義ノ北鐵奪取政策ヲ蔽フ能ハス且又脅迫手段ハ吾人ノ一笑ヲ招クノミト言上セサルヲ得ス

北鐵ヲ讓渡セントスルハ「ソ」側ノ希望ニシテ日滿側ハ之ヲ購入セント希望シ形式的ニ北鐵購入交渉ヲ開始セシ以上右交渉ハ正當ナル價格ニ基キ正常ナル狀態ノ下ニ行ハレサルヘカラス云々

二、北鐵ニ對スル不法行爲續行(「ハバロフスク」十日發「ロスター」電)「ハルピン」ヨリノ報道ニ依レハ「ルーデイ」局長ハ管理部宛報告中「ポグラニチナヤ」驛ニ於テ日本軍憲ハ告示ヲ掲ケタルカ右告示ニ依レハ「ポグラ」驛地帶ハ沿線ノ狹キ部分ヲ除キ一級及二級別ノ禁止地帶トナリ一級地帶ハ嚴重ナル罰則ヲ適用セラルル爲北鐵地方從務員ノ監視及奉仕行屆カサル儘トナリ二級地帶ハ一切ノ行政部落並ルヘカラス云々

三、北鐵匪害(「ハバロフスク」十一日發)

「ハルピン」ヨリノ報道ニ依レハ「ルーデイ」局長ハ北鐵管理部ニ對シ警備ノ缺陷乃至皆無ニ基ク自本年一月一日至八月十日ノ北鐵被害(前記一、ノ部參照、「プラウダ」紙社説中印用セル件數及數字ヲ列記)ヲ報告セルガ右被害額ハ動產ノミニテモ三十萬金留、營業上ノ損失ハ數十萬留ニ達シ尙北鐵ハ労働者及勤務員ノ治療費二十萬金留ヲ支出セリ其ノ他北鐵自身ノ講シタル警備手段ハ昨年度ニ比シ専大トナリ前驅列車ノミニテモ十六萬金留ヲ支出セリ「ルーデイ」局長ハ管理部ニ對シ東部線運行上ノ安全、裝備及財產並ニ北鐵從務員ノ生命ノ安全ヲ保障スヘキ現實の方策ヲ講セラレンコトヲ要請セリ

四、北鐵文化機關ニ對スル鬭爭(「ハバロフスク」十日發)

「ハルピン」ヨリノ報道ニ依レハ日滿警官ハ「ソ」聯領事ノ主張ニ依リ漸ク數日前ヨリ開館セラレタル北鐵々道俱樂部ニ對シ復々手入レヲ行ヒ居リ數日前横道河子驛<sup>ハシダヘイザ</sup>鐵道俱樂

本信寫送付先 在「ソヴィエト」聯邦大使  
在「ハバロフスク」總領事

~~~~~

匪賊の脅威により北滿鉄道は危機的状況との

(別紙一覽表ニ基キ作成セルモノ)

日本ニ有利ナルモノ 十四

日本ニ不利ナルモノ 七十三

(尤モ右ノ中ニハ「タス」通信等ノ誇大ナル反日報道

ヲ引延スニ止マレルモノモアリ)

中立ト認ムベキモノ 十三

唯此ノ間ニアリテ「タム」「デバ」「ジユルナル」ハ慎重ナ
ル態度ヲトリ日蘇關係ノ逼迫ナル報道ガ誇張サレ居ルコト
ヲ主張シ寧ロ日本ガ曰下ノ関心ハ海軍々縮問題ニ在リトノ
趣旨ヲ論ジ「マタム」ハ佛國政府ノ親蘇政策ヲ攻撃シ日蘇
干係ニ付テモ日本ヲ擁護スル態度ヲトリ右ノ外「フイガロ」
「プチパリジアン」「プチ・ジユルナル^(マニ)」モ我方ニ有利ナ
リ

御参考迄ニ八月中當地新聞ニ掲載サレタル日蘇干係ニ関ス
ル論說ヲ我方ニ有利ナルモノ不利ナルモノ中立的ナルモノ
ニ分チ統計ヲトルニ別紙ノ如シ

〔別 紙〕

255 昭和9年9月10日 在滿州里田中(文一郎)領事より

広田外務大臣宛

北滿鉄道讓渡交渉停頓の時節柄閏東軍の満州
里渡來が同地ソ連側に多大な影響を与えた件
につき報告

公機密第二五五號

昭和9年9月10日

在滿州里

昭和9年9月10日付 在滿大使宛

(9月17日接受)

外務大臣 廣田 弘毅殿

領事 田中 文一郎(印)

昭和9年9月10日付 在滿大使宛

在滿州里

昭和9年9月10日

在滿州里

昭和9年9月10日付 在滿大使宛

（9月17日接受）

外務大臣 廣田 弘毅殿

領事 田中 文一郎(印)

昭和9年9月10日付 在滿大使宛

在滿州里

昭和9年9月10日

在滿州里

住民モ鑛業地ノコトトテ血氣ノ労働者多キ爲些細ナ動機ヨリ如何ナル不祥事ヲ惹起セストモ計り難ク殊ニ十一月ヨリ

六月迄ハ本邦トノ交通全ク杜絶シ孤立状態ニアルニ鑑ミ北権太石油會社鑛業所ニ於テモ萬一ノ場合ヲ憂慮シ居レル有様ナリ

⁽²⁾ 本官トシテハスル事端ノ發生ヲ豫期セスト雖我利權企業事業ヘノ影響及萬一ノ場合ヲ未然ニ防止スル爲出來得レハ當地又ハ亞港ノ如ク在留本邦人多キ土地ニ於テハ餘リ蘇住民ヲ昂奮セシムルカ如キ反日記事ノ連日掲載ヲ幾分緩和スル

様蘇當局ニ要望シ度所存ナルカ本邦ニ於テモ盛ニ反蘇記事ヲ掲ケ居レル以上當地官憲限リニテハ容易ニ應諾スルモノトモ思ハレス又當館トシテモ此ノ際斯ル希望申入レ差支ナキヤ否ヤ承知セス寧ロ若シ可能ナルニ於テハ在蘇大使ヨリ蘇政府ニ對シ注意喚起方御願スル方順當ニシテ且效果多カルヘシト思考スルニ付右然ルヘク御考慮相成度シ尤モ本官ヨリ申入レ然ルヘキニ於テハ早速之ヲ試ミルヘシ

尙時局柄先月末ヨリ當館前ニ民警派遣セラレ終日當館警衛ノ任ニ當リ居レリ
御裁量ニ依リ新京、哈爾賓ニ轉電アリタシ

浦潮ヨリ哈府へ轉報アリタシ

258 昭和9年9月17日 広田外務大臣より
在ウラジオストク渡辺總領事宛

北滿鉄道問題に關するソ連紙の反日報道には
今後とも注意を要する旨指示

報一機密第五二號

昭和九年九月十七日

外務大臣 廣田 弘毅

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理惠殿

北鐵問題關係蘇紙記事ニ關スル件

本件ニ關シ本年八月二十七日附貴信機密第一〇三號ヲ以テ御報告ノ次第承然ル處本年八月二十七日附拙信報一機密合第一二五四號ヲ以テ申進メ置キタル通り「スポークスマン」ノ談話ヲ正確ニ報道セシムル爲メニハ「スポークスマン」ト外國通信員トノ間ニ相互信賴ノ念存在スルコト頗ル緊要ノ儀ナルカ「タス」特派員ニ於テハ從來兩三回不正確ナル通信ヲ電報シ而カモ「イズヴエスチア」ノ如キハ之ヲ

露、亞港へ轉電シ哈府、浦潮へ暗送セリ

反日的報道取締まりにつき極東部長へ申入れ

257 昭和9年9月14日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)

モスクワ 9月14日後発
本省 9月15日前着

第四七二號

「オハ」發閣下宛電報第四〇號ニ關シ(北鐵問題煽動記事ノ件)

本件ハ現地ニ於テ交渉方適當ト認メタルモ爲念十四日極東部長代理ヲ往訪セル酒匂^(カ)シテ右電報ノ趣旨ヲ適宜説明シ「オハ」ノ如キ地方ハ最不祥事ノ起り易キ所ナルカ右ハ蘇側中央ノ意ニ反スルモノト認ムルトテ地方機關紙ノ反日記事取締方懇談セシメタル處先方ハ地方新聞カ特ニ反日宣傳ヲ爲シ居ルモノトハ考ヘサルモ酒匂^(カ)來話ノ次第ハ之ヲ上局ニ傳達シ置クヘシト答ヘタル趣ナリ

満、哈爾賓、亞港、「オハ」、浦潮へ轉電セリ

「スポークスマン」ハ八月十七日ノ會見ニ於テ「スポーク

最忠實ニ打電シ居ルモ尙直ニ莫斯科「タス」本社宛『本日

スマン」ハ滿洲國カ北鐵ヲ奪取セストノ保證ヲ與ヘ得ルヤ」トノ質問ニ對シ「スポークスマン」カ與ヘタル答辯ハ滿洲國政府ニ於テ何等奪取ノ計畫アリトノ印象ヲ爲セルモノニアラスト言明セリ』トノ訂正電報ヲ打電スベキ旨約束シ後刻右電報寫ヲ送附シ越シタリ更ニ同月二十三日ノ「イズヴエスチア」紙ハ二十日東京發「タス」電報トシテ『軍閥ノ爲メニ無花果ノ葉ノ役ヲ勤メ居レル外務省「スポークスマン」云々ノ侮辱的記事ヲ掲ケタルヲ以テ情報部長ハ再ヒ「タス』特派員ヲ招致シ蘇新聞カ右ノ如キ誤解ニ基ク侮辱的言辭ヲ弄スルハ畢竟不正確ナル記事ニ基クモノナルガ右記事ハ日本ニ關係スル限り「タス」特派員モ責任ヲ分ツベキ筋合ナリトテ注意ヲ喚起シタル上記「イズヴエスチア」ノ論評振ニ關シ我方ニ於テ甚シク不快ニ感スル次第ヲ述ヘ右ヲ「タス」社長「ドレツキイ」及「イズヴエスチヤ」社長「ブハーリン」ニ傳達注意方要請シ置キタル處同特派員ハ右ヲ電報ノ結果「ド」ヨリ我方申入ヲ詳細「ブ」ニ傳言濟ミノ旨回電ニ接シタル趣同部長迄内報越セル由ナリ右ニテ御了解ノ通り我當局トシテハ新聞記事差止メ事項ニ屬スルモノヲ除キテハ格別「ソビエツト」流ノ通信檢閱ヲ行ヒ

リ

外務大臣 廣田 弘毅殿
件名
最近ニ於ケル北鐵蘇聯從業員ノ動向ニ關スル件
(本館警察署長報告要旨)

本件ニ關スル九月一十五日附在滿大使宛拙信公領機密第一三一三號寫送付ス

公領機密第一三一三號

昭和九年九月二十五日

在哈爾賓

總領事 森島 守人

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

最近ニ於ケル北鐵蘇聯從業員ノ動向ニ關スル件

(本館警察署長報告要旨)

本件ニ關シ諜者ノ齎ス情報ニ依レハ東京ニ於ケル北鐵讓渡交渉停頓後滿洲國側ノ蘇聯從業員ニ對スル積極的司法権活動ニヨリ蘇聯側ニ一大恐慌ヲ來セルコトハ周知ノ事實ナルカ從來滿洲國內ニ在リテ潛行工作ヲ繼續シ來レル積極分子

ハ身ノ危險ヲ慮リ夫々何等カノ理由ヲ設ケ歸國セムモノト管理局、當局又ハ州委員會方面ニ運動シツツアルカ全聯邦共產黨州委員會ニ於テハ之等歸還希望黨員ニ對シテハ殆ント無條件ニテ其ノ希望ヲ容レ居レリ右ハ同委員會カ北滿工作功勞者ノ希望ヲ容レサルニ於テハ或ハ滿洲國側ニ通謀セラル事ナキヤヲ危虞セルモノニシテ之等歸國者ノ後任トシテハ現業員ニハ鐵道聯隊ノ現役軍人ヲ又事務方面ニハ一般現役軍人ニシテ有能者ヲ補充スルモノノ如シ而シテ歸國許可ヲ得タル之等尖銳分子ハ各個ニ滿洲里驛ニ集合同地蘇聯領事ノ指示ニヨリ本國ニ向ケ歸還スルコトトナリ居レルカ最近歸國セルモノヲ舉クレハ九月十四日鐵路現業員及水路關係者約三十家族百十數名、同月十六日會計處々長カルトマン夫妻、監事會員コロソフ、翻譯科長代理ノ妻インドウア、機車廠長代理キベリ、翻譯處秘書バルホフ夫妻ナリト云フ

尙奉天總領事代理タルシエンシヨフ及同家族並ニ秘書ウアトヴァルハ去ル十八日本國ヨリ來哈滯在中ナルヲ以テ現駐奉天總領事エロフエフモ近ク歸國スルモノト見ラレ居レ

居ラサルモ御來示ノ如キ我方ヲ中傷シ若クハ事實ヲ誣ヒタル惡意ニ基ク宣傳記事ニシテ日蘇友好關係ニ有害ナリト認メラルモノニ對シテハ隨時蘇國中央政府ノ注意ヲ喚起シ又ハ必要ニ應シ在京「タス」特派員ニ戒告ヲ加ヘ居レル次第ナリ就テハ右御含ノ上此上トモニ蘇紙論調ニ御留意相成様致度シ

本信寫送先

在蘇大使

在「ソ」各總領事、領事、領事分館主任

在ハルビン森島總領事より

259 昭和九年九月二十五日 在ハルビン森島總領事宛

北滿鉄道從業員逮捕問題に対し同鐵道ソ連側

從業員中積極分子のソ連国内への帰還に関する

る情報について

機密第一四六〇號

昭和九年九月二十五日

在哈爾賓

總領事 森島 守人(印)

(10月4日接受)

右報告ス

本信寫送付先

外務大臣

在奉天、新京、滿洲里、海拉爾、齊々哈爾各總

領事領事

關東軍參謀長 關東憲兵隊司令官

關東廳警務局長

駐哈特務機關長 駐哈憲兵隊長 第二師團參謀

長

260

昭和9年12月17日 長瀬(貞一)農林次官より
重光外務次官宛

北滿鐵道讓渡代價物資として漁業用品を輸出する
際には農林省において事前研究要望について

九水第七九七一号

(接受日不明)

昭和九年十二月十七日

261

昭和9年1月5日

在アレキサン드리ア北田(正元)総領
事より
広田外務大臣宛

「日埃貿易協会」の創立による日本・エジプト貿
易の発展を期待するとの同国關係者回報について

付 記 昭和八年十二月二十七日発広田外務大臣より

在アレキサン드리ア北田総領事宛電報第三三
号

「日埃貿易協会」設立について

(1月29日接受)

公第六號
昭和九年一月五日

在アレキサン드리ア

總領事 北田 正元(印)

外務次官 重光 奠殿
農林次官 長瀬 貞一
北滿鐵道買收代價物資ニ關スル件

目下満「ソ」間に於テ交渉中ノ北滿鐵道買收問題ハ遠カラ
ス解決ノ運ニ到リ其ノ買收代金ノ一部ハ物資ヲ以テ代價セ
ラルコト相成哉ノ趣報道有之候處我北洋漁業ニ付テハ
日「ソ」兩國ハ対立關係ニ在ルヲ以テ若シ「ソ」側カ本邦
ヨリ多量ノ漁業用品ヲ輸入シ其ノ漁業經營ヲ拡大スルニ於
テハ自然我方ニ不利ナル關係モ有之旁々曾テ昭和六年「ソ」
政府ニ對スル「クレヂット」設定問題ノ起リシ當時日本蟹
罐詰業水產組合並ニ露領水產組合ハ同様ノ趣旨ヲ以テ右設
定ニ反対ノ意思ヲ表明シ商工省並ニ當省ニ陳情シタル次第
モ有之候条件ニ關シ「ソ」側カ日滿側ヨリ購入セントス
ル物資中ニ漁業用品ヲ含ム場合ハ其ノ購入決定前當方ニ於
テ研究ヲ爲シ得ル様可然御配意相煩度此段及依頼候也

決議ニ關スル件

本件ニ關シテハ昭和八年十二月十八日附拙信公機密第四四
五號ヲ以テ不取敢右各方面ニ通報シ置キタル次第並ニ當地
新聞紙上ノ反響等ニ關シ報告シ置キタルカ其後當國農務大
臣ヨリハ別紙甲(省略)號寫ノ通り在「カイロ」農事協會ヨリハ別
紙乙(省略)號寫ノ通り又外務大臣ヨリハ別紙丙(省略)號寫ノ通り夫々回
答ニ接シタルカ右ハ何レモ丁重ナル語辭ヲ以テ本協會ノ設
立ニ對シ祝福ノ意ヲ表シ殊ニ本協會最初ノ事業カ埃及棉輸
入增加ノ計畫ニアルヲ殊ノ外満足シ居レリ。
其他大藏省、同省商工局等々關係ノ向ヨリモ類似ノ回答ニ
接シタルカ本協會ノ設立及創立委員會ニ於ケル埃及棉等ノ
輸入促進決議ハ時節柄當國官民ニ多大ノ好感ヲ與ヘ將來ノ
日埃關係及貿易増進上ニモ效果尠カラサルヘク右我方ノ処
置ハ全ク時機ニ適合シ其ノ好影響意外ニ多大ナリシモノト
觀測ス。

七 諸外国との通商問題

外務大臣 廣田 弘毅殿
日埃貿易協會創立委員會ノ埃及產品輸入促進